



トンボは水の中で育つのに、どうして空を飛べるようになるの

こん虫は、変身するから生き残れた

こん虫は、種類がいちばん多く、あらゆる動物の種類の中で、4分の3以上が、こん虫の仲間といわれるほどです。こんなにたくさんの種類のこん虫が、ほろびずに生きている理由の一つは、生活のしかたがそれぞれちがっていて、食べ物やすみか、活動する場所や時間が、ほかの虫とぶつからないようになっていたためと考えられます。

また、ほとんどのこん虫は、卵 幼虫（さなぎ）成虫のように、変態をします。（トンボやバッタは、さなぎの時代がない不完全変態をします）。こん虫以外に変態をする動物は、エビ・カニの仲間、ウニやカイ、カエルやイモリなどぐらいです。

親と子が、生活や環境、食べ物などがまるでちがう変態をすることで、気候や環境が大きく変化しても、親子のどちらかが生き残れる割合が大きくなります。それで、これだけの種類のこん虫が、今も生きているといえそうです。

こん虫は、親子がちがった生活をするものが多い

トンボは、幼虫のときは水中でえらで息をし、ほかの虫や小魚を食べています。おとなになると気門で息をし、空を飛びながら、虫をとらえて食べます。ガの仲間には、幼虫時代はもりもり葉を食べて大きくなり、おとなのガになると、口がほとんどないものがあります。子孫を残すために卵を産むことだけが、成虫のガの役目です。交尾相手を見つけて産卵すると、すぐ死んでしまうため、ガには口はいらないのです。砂場でアリなどをとらえて食べるアリジゴクは、夏の夜、明かりの下に飛んでくるウスバカゲロウの幼虫です。変身は、こん虫の生き残るための、わざなのです。（監修・中山 周平）

